

安保破棄ニュース

NO. 579 2025・8・15

安保破棄・諸要求貫徹大阪実行委員会

〒543-0016 大阪市天王寺区餌差町9-6 2階
TEL 06-6763-3833 FAX 06-6763-3836
HP <http://www.anpo-osk.jp>
E-mail anpo-osk@abeam.ocn.ne.jp

被爆80年・原水爆禁止世界大会 広島大会に参加して

事務局長 守山禎三

今年は戦後・被爆80年、広島と長崎の両地で世界大会が開催され、8月4日からの広島大会に参加しました。

広島県立総合体育館で初めに映された映像では、1945年当時、広島は国内有数の兵站基地であり、4万人の日本兵がいたということが紹介されました。

被爆80年となる今年は、被爆者健康手帳を持つ被爆者が初めて10万人を下回り、9万9130人、平均年齢は86.13歳に達しています。

8月6日の広島原爆の日に平和記念公園で配られた号外には、今年、朝日新聞・中国新聞・長崎新聞の三社が合同で行った被爆者へのアンケートに寄せられた、43都道府県3564名の方からの回答が紹介されていました。

アンケートの自由記述欄には震える文字が並び、子や孫による代筆も16.2%あったといい、最近になって自らの体験を語り始めた方も多く、「家族にも同級生にも原爆の事はお互い話していません。はじめて書いて、つらい事でした。高齢のため字もうまく書けません」など、このアンケートで初めて語った方も多いいいます。

そして、昨年の日本被団協のノーベル平和賞受賞に背中を押されて語り始めた方もいらっしゃるということです。

5人の被爆者の方からの報告

初日の広島をつどいでは、5人の被爆者からの証言が行われました。

当時女学校の2年生だった矢野さんは、防火帯をつくるための作業に動員されていましたが、そ



の日はお腹をこわして休んでいたため助かりました。終戦後に学校で行われた慰霊祭に来た、亡くなった友達のお母さんに「真面目に作業した者が死に、サボった者が生きている。あなたの顔は見たくない」と言われ、「私は生きていてはいけないんだ」と思ったが、どうしても死ねなかった。

二人目の本谷さんは当時17歳。鉄道局の印刷工場に勤めていて被爆されました。次々と家族が亡くなる中、様々な病気になりながらも、これまで生きてこられたのは「お前だけでも生きろ」という皆の思いがあったのではと、91歳の時から語り部をされています。

三人目の朴さんは92歳。被爆当時、自身が韓国人だとは知らなかった彼女は、45年12月に初めて朝鮮に帰りますが、全くの異国の地。とても被爆者などとは言えず、50年には朝鮮戦争が始まります。

大変な生活の中、お母さんは「原爆のせいだ！」と苦しみながら亡くなられ、彼女自身「憤怒」の中で黙って80年間生きてこられましたが、「戦争を始めた日本と、原爆を落としたアメリカに訴えたい」、黙ってはいけないとの思いから語り始

められました。

その言葉からは、自らの、そして見送った方々の「生きた証」を残したいという、あまりにも重い「思い」を感じ、思わず熱いものがこみ上げてきました。

そして四人目の高東さんは「黒い雨」による被爆者、五人目の三村さんは「胎内被爆者」です。「黒い雨」は降っていないとされたために被爆者であることすら認められなかったという状況は、福島原発の被災者に重なり、国の無責任な「受忍論」による戦争被害者に対する誤った補償の在り方への怒り。

なかでも、長崎市立城山小学校に設けられた、原爆の軍事的研究のための「原爆学級」についての証言には、怒りに体が震えました。

被爆二世のドライバーさんの話

5日、この日は、参加する動く分科会が昼からだったので朝一番に平和記念資料館に向かいました。たまたま、乗車したタクシーの運転手さんが被爆二世の方で、被爆者健康手帳の話になり、語られたお父様が胃がんで亡くなられた時のことを紹介します。

亡くなってすぐ、市役所から電話がかかってきたが、まともなお悔やみの言葉ではなく、「手帳を返せ」と言われた。

一週間程すると葬式代1万円が振り込まれてきた。広島市では、被爆者は8500円で葬式はできるが、「なんと事務的な対応か！」と思った。

核兵器禁止条約に触れない石破首相 — 平和記念式典

そして6日の朝、8時から行われた平和記念式典で読み上げられた松井市長の平和宣言では、混迷を深める世界の厳しい情勢の中で、「自国を守るためには、核兵器の保有もやむを得ない」という考え方が強まりつつあるという懸念を示し、だからこそ、「自国のことのみに専念して他国を無視してはならない」と記された日本国憲法前文の一節を引用して、「核抑止力」に依存するのではなく、信頼関係に基づく安全保障政策への転

換を世界の為政者に求め、日本政府に対しては、唯一の戦争被爆国として、「ヒロシマの心」に応えて核兵器禁止条約の締約国となることを、来年開催される第一回再検討会議にオブザーバー参加することを求めました。

しかし、式典に参加した石破首相は、さすがに日本被団協のノーベル平和賞受賞には言及するものの、核兵器禁止条約には一言も触れず、被爆者の皆さんとの面談の場においても、条約には触れず、参加者の憤りをかいました。

再び被爆者となることのない社会をめざして

「諦めるな。押し続けろ。進み続けろ。光が見えるだろう。そこに向かって這って行け」

（2017年12月、ノーベル平和賞受賞式でのサーロー節子さんのスピーチより）

「安らかに眠って下さい 過ちは 繰り返しませぬから」（広島平和都市記念碑に刻まれた碑文）

私たちも、決して諦めることなく、思い出すこと自体があまりにも辛い原爆の実相を語り続け、世界中のすべての人々が二度と再び被爆者となることのない社会をつくることを願って行動し続け、ついに、激動の時代における「希望の光」と言われる核兵器禁止条約を実現することに貢献した被爆者の皆さんにならって、平和・人権・民主主義が何よりも大切にされる日本国憲法のいきる社会をつくるために、もうひと踏ん張りしようと思える、すばらしい原水爆禁止世界大会でした。

夏の暑い盛りに、白、濃い桃色などの花を咲かせる夾竹桃。かつて、原爆が投下され、荒廃したヒロシマの地で、いちはやくよみがえり、花を咲かせたのは夾竹桃でした。復興、くらしの再生、復活、平和への祈り…夾竹桃の花は、人々の心を励まし、カブけるシンボルでもあったのです。平和への深い祈りを込めて、花言葉は「命の再生」



変貌する自衛隊呉基地

原水禁大会・動く分科会報告

事務局長 守山禎三

原水禁世界大会に向かう直前の7月27日（日）、大変なニュースが報じられました。

それは、日米の外務・防衛当局者が参加する「拡大抑止協議」で、自衛隊が、「台湾有事」において、中国が核使用を示唆する発言をしたとの設定で、米軍に「核の脅し」で対抗するよう再三要求し、昨年12月に日米間で作成されたと報じられている「拡大抑止に関するガイドライン」に、その手順が書かれていたということを伝えるものでした。

緊迫する世界情勢の下でも、核兵器禁止条約が批准国73、署名国94に達して国際的な規範となりつつある中で、唯一の戦争被爆国である日本の自衛隊が、事もあるに核戦争を推進するような行為であり、世界の期待と信頼を裏切る、断じて許されないものです。

「安保3文書」に基づく対中国を念頭に置いた、対米従属の下での「戦争国家」づくりの動きが、ここまで来たかということが起こる中での原水禁世界大会で、呉基地調査行動で知った事実は、まさに、そんな動きに符合するものでした。

呉基地は今、大きく変貌して、 再び大軍事拠点にされようとしています

かつて戦艦「大和」などの建造も行われ、日本海軍最大の基地が置かれていた呉の人口は広島市よりも多い40万人を数え、原爆の投下目標にもされていたといえます。

そんな「侵略戦争」の拠点であったために、大規模な空襲だけでも5回と、全国的にも大きな被害を受けた呉では、「二度と戦争はごめんだ」と戦後の再出発を官民あげて決意し、日本国憲法が示す戦力不保持を念頭に、「平和日本実現の理想達成に寄与することを目的とする」旧軍港市転換法（軍転法）によって「平和産業港湾都市」として生まれ変わることを目指して製鉄所になった場所が、再び「軍用地」にされようとしています。

それが今問題になっている日本製鉄瀬戸内製鉄所跡地への、防衛省による複合防衛拠点整備計画です。

この跡地は、多くの企業がこの地域から撤退する例の一つとして日本製鉄が2023年9月に製鉄所を閉鎖したことによるものですが、その活用についての実効性ある具体策が打ち出せない中、2024年3月に持ち出されたのがこの計画です。

今年の3月には、広島県の調査により軍転法の原点に戻って、民間事業所（平和産業）を誘致した場合、6.3兆円の経済波及効果が期待できる活用案が示されましたが、市長はこの案を無視して防衛相に複合防衛拠点整備計画を急ぐように要望し、7月31日には防衛省が日本製鉄と土地売買契約に向けた基本的事項で合意します。

そして、防衛省は約130haの跡地を一括購入し、12の区画に分けて、民間企業（軍需産業）誘致、火薬庫、無人機の製造・整備、自衛隊員が勤務する庁舎などを複合的に備えた軍事拠点をつくらうとしてい



「大和」が建造されたドック



潜水艦 ↑ 護衛艦 ↓



再び「軍用地」にされようとしている日本製鉄瀬戸内製鉄所跡地

るのです。

今年3月には陸海空3自衛隊共同の新部隊「自衛隊海上輸送群」が呉基地に司令部を置いて発足したと併せて、もし「有事」となれば真っ先に攻撃目標とされることが予想されることから、ここでも危険な自衛隊基地の増強に反対する市民の運動が沸き起こっています。

437th

23宣伝行動

7月の「23宣伝」は、上六の交差点で実施し、7団体・地域9名が参加しました。

7月20日投票で実施された参議院選挙の結果を受けて、大教組の中川さん、平和遺族会の大島さんと事務局長の守山がスピーチしました。

今回は、前回大雨警報のためにやむなく宣伝を中止したために使えなかった新作のプラスターを示しながら、暮らし・教育・社会保障など国民のために使われるべき税金が、どれ程突出して軍事

優先に使われている

かを伝え、「アメリカ言いなり」の歪んだ政治を正すことを望む、国民の声を国会に届けていこうと訴えました。併せて、今回の参議院選挙において大きく議席を伸ばした排外主義の主張を声高に叫んだり、自民党政治を補完するような勢力への注意を喚起しました。



平和遺族会・大島さん

《当面の日程》

8月

18日(月) 機関紙印刷発行作業&事務局会議

10:00～ 大阪安保事務所

20日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00～

大阪安保 4階会議室

22日(金) 大阪安保23定例宣伝行動 17:30～
玉造交差点 (共産党担当)

23日(土)～24日(日)

近畿安保・自衛隊基地視察行動(舞鶴)

30日(土)「あいば野大集会」滋賀県高島市

9月

11日(木) 機関紙印刷発行作業&事務局会議

10:00～ 大阪安保事務所

17日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00～

大阪安保 4階会議室

20日(土) 大阪「平和大会」

22日(月) 大阪安保23定例宣伝行動 12:30～
(担当)

奈良「RYU裁判」13:30～奈良地裁

26日(金) 近畿安保・合同会議

13:30～ 大阪安保事務所

28日(日)「日本母親大会in東京」13:00～

分科会 日本教育会館 他

29日(月)「日本母親大会in東京」12:30～

全体会 東京国際フォーラム

10月

9日(木) 機関紙印刷発行作業&事務局会議

10:00～ 大阪安保事務所

15日(木) 大阪安保常任幹事会 10:00～

大阪安保 4階会議室

23日(木) 大阪安保23定例宣伝行動 12:30～
(担当)

24日(金)「日本平和大会in愛知」13:00～
フィールドワーク(基地・軍需産業)

25日(土)「日本平和大会in愛知」13:00～
開会集会ほか 名古屋市民会館ほか

26日(日)「日本平和大会in愛知」9:15～
分科会ほか 名古屋市民会館ほか

11月

9日(日) 京都「いらんちゃフェスタ」

13日(木) 機関紙印刷発行作業&事務局会議
10:00～ 大阪安保事務所

19日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00～
大阪安保 4階会議室

21日(金) 大阪安保23定例宣伝行動 12:30～
(担当)

28日(金)～30日(日)

「基地闘争交流集会in沖縄」

12月

11日(木) 機関紙印刷発行作業&事務局会議
10:00～ 大阪安保事務所

近畿安保「オンライン学習会」18:30～

17日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00～
大阪安保 4階会議室

23日(火) 大阪安保23定例宣伝行動 12:30～
(担当)

